

# 県エネ産業企業会の支援

## 地熱と温泉熱 小水力に力点

産学官でつくる大分県エネルギー産業企業会は、再生可能エネルギーなどのビジネス育成を加速させるため、新しい活動方針を打ち出した。資源豊かな大分地域特性を生かして、成長の「芽」が膨らみ始めた「地熱・温泉熱」「小水力」に支援の力点を置く。来年4月に始まる「電力自由化」、燃料電池などで注目が高まる「水素」の2分野にチャレンジする企業も新たに後押ししていく。

2012年の設立から3年が経過。再生エネことへの開拓の3部会制を、分野別明確化してきた異なる課題・グループを設けた地熱・人材育成・会員交流、販路 など、小水力は地場企業連

合体の組織化といった成長の基盤ができてきた。

本年度、地熱・温泉熱グループには約10社が参加。配管をふさぐスケール(温泉成分)対策、熱利用などを候補に、取り組むテーマを検討している。小水力も約10社が手を挙げ、技術開発や全国の販路開拓などに挑む見通し。着実に成果を挙げ全国をリードできるよ

電力自由化と水素の2分野

挑戦後押しへ



地場企業が開発し由布市庄内町野畑の用水路に設置された小水力発電所

う、資金助成などきめ細かなサポートをしていく。電力自由化と水素は新たな有望分野として多様な商機が見込まれる。水素は大分コンビナート(大分市)にある工場の製造過程で大量に発生しており、その有効活用も目指す。

参入企業の裾野拡大に向けては、太陽光や風力などを生かすアイデアの可能性調査や試作を支援し、新規の挑戦をしやすくする。

事務局の県工業振興課は「(太陽光発電の新規開発に制約ができ)冷や水を浴びせられた面はあるが、エネルギーは世界的な成長分野に変わりない。再生エネ先進県の優位性を生かし、引き続き地場企業を応援し基幹産業化を目指す」としている。

(系永健太郎)